

地域訪問を開始 一歩ずつ前へ

小名浜レポート

25日から27日まで小名浜生協病院を起点に下神白地域・永崎地域・小名浜地域の地域訪問、江名中学校の避難所訪問をおこないました。

下神白の店と家が半壊してしまい、雨漏りで大変だという自営業の方は、震災の当日は取るものもとりあえず車で避難し、「小名浜生協病院までくれば安心」とそのまま病院の駐車場を夜を明かしたということでした。神白川・梅田川沿いは津波による浸水被害がひどく、浸水で家財が全てだめになってしまったが、「床上浸水」の3万円の見舞金しか出ないため、先行きが不安だとうたっていました。また余震が怖く、特に夜が不安で毎晩高台の友人宅へ泊りに通うという生活を続けている方もいました。

一度は知人などを頼って避難しても、体調不良や気疲れから自宅に戻っておられる方も大勢おり、「地震や原発は心配だが自分の家にいたい」と共通して語られていたことが印象的でした。



写真

上：地域訪問の様子

右：壁が抜けて隣の仕切りがなくなった長屋

左：訪問地域の地図



また小名浜横町では訪問対話した14件中4件は一人暮らしの高齢者世帯でした。訪問したある長屋では風呂場の壁が壊れ隣の家との仕切りがなくなっていました。高台の高級住宅街ではすでに壊れた箇所の工事も終わり、きれいに片付いているところもあり、地域格差を感じました。

沿岸部で被害の大きい永崎地域では、いくつか残っているお宅もありましたが、訪問して話を聞くと、「自分の家は残っても周りは皆いなくなりました。ここを出ると決めた人は新しい生活に向けて前に進んでいるけど..」とコミュニティーを失い、取り残されてしまうことへの不安感をうたっていました。

訪問活動の方法も日々整備されています。例えば、避難所では生活再建に活用できる給付金などの制度の案内や、避難先でも必要な介護サービスを受けられるという情報が掲示されており、そうした情報を自宅で避難生活を送っている方々にも届けることが必要だという声が一日のふり返りの場でも出され、いわき市やハローワークが作成している資料をコピーし、地域訪問先で手渡すなどの改善がはかられました。

現地の職員や組合員さんと一緒に現地のニーズを探究しながら、一歩ずつ支援活動を進めています。